

〈随想〉

オーストラリアの旅（7）

花尾省治

第16回オリンピック，メルボルン大会も本日（11月8日）をもって終をつげた。今回の大会でオーストラリアという国が世界のすみずみに知れわたった。又スポーツによって結ばれた友情が日本とオーストラリアの悪い感情をほぐしてくれることであろう。

『オーストラリアの経済的地位』1国の経済力を最もよく示すものはその国の国民所得といえるだろう。1953年の主要国の国民所得を1人当りに算出してみると第1位が米国の2,000ドル，次がカナダで1,300ドル程度，ニュージーランド，スイス，スウェーデンが各1,000ドル位，オーストラリアは第6位で900ドル程度となっている。この数字からするとオーストラリアの一人当りの平均所得は世界の優位の水準にあるということが出来る。

オーストラリアは戦後小麦，バター，肉，羊毛等の食糧と原料生産国として世界の優位の波にのって1950-51年の羊毛ブームで巨利をおさめたが一方主要輸出品である農畜産物は次第と低下し又工業生産もふるわずこのため輸入が急激に増え，51年

の生計費指数は戦前の2倍に達した。しかし政府の輸入削減，投資信用統制税率引上げなどのインフレ対策で物価は低落不況の色が現れたが53年基準賃金が据置となりインフレをくいとめられた。

物価指数（1939年6月に終る3年の平均基準=1,000）

	38 ~ 39	49 ~ 50	50 ~ 51
1次産業生産物	922	2,955	4,575
輸出品	819	3,994	6,902
輸入品	991	2,231	2,555
食料品	1,048	1,664	1,998
衣料品	1,018	2,626	3,044

『国民所得と支出の報告』

1948-49年より1954-55年迄に国民所得は約20億ポンドから約40億ポンドまでに上昇した。これに反し原材料や食糧品の大きざっぱな基本価格や小売価格が約75%もあがった。同じ期間に人口はかれこれ12.5%増加の数字を示している。

国民所得と支出の概略は下のようである。

国民所得と支出（単位 百万ポンド）

摘要	1938-39	1948-49	1949-50	1950-51	1951-52	1952-53	1953-54	1954-55
国民所得	780	1,950	2,283	3,155	3,259	3,589	3,842	4,033
住民の個人所得	717	1,907	2,201	2,905	3,212	3,499	3,676	3,833
国家全体の生産物	912	2,266	2,693	3,610	3,841	4,201	4,560	4,832
現在国定資本準備の民間投資	113	299	422	567	720	637	725	833
国家の生産物の割合	13	13	16	16	19	15	16	17
公共事業の政府支出	62	141	197	289	393	389	397	412
全体の国家生産物の割合	7	6	7	8	10	9	9	9
商品とサービスについて輸出と他の収益	162	577	660	1,048	746	931	899	862
同輸入と他支出	141	502	653	896	1,274	679	837	1,035
農業	-	-	-	-	-	581	540	(468)

農業収入は全期間を通じて46%方上昇したが前2年間20%近く下落。
個人所得は全期間を通じて約115%あがった。

岡山畜産便り 1957.01

報告書によると国民所得は1950～55年までに30%方上昇したが、しかし例年の増加率は減少してきた。即ち1952～53年の10%、1953～54年の7%、1954～55年の5%のゆったりした減少を示している。

農業生産高の総価格は1954～55年に4,000万ポンド近く下る見積りをした。その理由は小麦が2,000万ポンド近くに評価されたのと羊毛数量3%以上の増加が見積りされたにもかかわらず生産価格の下落にもとづいている。これ等の減少は肉やバターの高の増加でもって部分的に相殺されてきた。

1955年9月のメンジス首相が下院でオーストラリアの経済に関する声明を行ったがその大要は、景気がよくても危険な傾向が現在やってきている。そしてそれを調整しないと大変困難なことになってくる。このことは第一に労働力の不足であること。次が賃金が上昇していること。大きな外国取引の欠換。輸入について高い需要。消費者の消費と個人投資の景気、銀行の信用貸と利賦払い購買、賃金の膨張の衝突等のことがあげられている。

